

日時：H5. 1月21日

場所：きりしま総合発達支援センター（Zoom）

SCERTS 勉強会

講師：くらしき作陽大学 瀬戸山 悠 先生

○ビデオを見ての症例検討

・N君のSAP目標

子どもの目標	大人の目標
JA 2. 3 社会的パートナーの注意の焦点をモニターする	IS 1. 2 子どもの情動やペースに同調する
JA 5. 3 交代をする	IS 1. 6 子どもを模倣する
MR 1. 2 様々な情動を表出するシンボルを理解し、使用する	IS 2. 3 始発のターンと応答のターンのバランスをとる
MR2.5 パートナーの情動表出の変化に同調する	LS 2. 3 情動の表出と理解を高める為に、補助的なコミュニケーション支援を用いる
SR 2. 2 覚醒水準を調整するために、パートナーがモデルとして示した行動方略を使用する。	LS 4. 4 注意を高める為に、学習環境を整える
SR 3. 1 一人の活動中に覚醒水準を調整するために言語方略を使用する。	LS 4. 7 活動に動機付けとなる材料やトピックを取り入れる。

・ニーズと個別支援の目標、支援の方向性

ニーズ：①外出先で大声を叫んだり、セリフを言うことがある。②学校の行事では、母親を探して、視野からいなくなると泣き叫ぶ

要求・抗議はあるが、相手からの働きかけ・アドバイス（非言語・ジェスチャーも含む）を入力（応答）できない。母親以外でも安心して、遊んだり表情を理解したり、意図がつかめる経験が少ない。（社会性の発達の過程なのでじっくり進める）

目標：大人をみたり、次の動きを期待して待てる

意味：本人から人へ注目する機会（相手への興味、自分もしようとする）。決まった遊びの中から繰り返しを要求（遊びの中で意図が分かる）。相手からの働きかけに応じる（模倣へつなげる）

- ・ 母親以外でも安心して、遊んだり表情を理解したり、意図がつかめる経験（社会性の発達）